

製品名: CD141 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08210**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量 | 100kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | THBD |
| 別名 | THBD; THRM; Thrombomodulin; TM; Fetomodulin; CD antigen CD141 |
| 遺伝子 ID | 7056.0 |
| SwissProt ID | P07204 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト THBD 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 526-575 |

背景

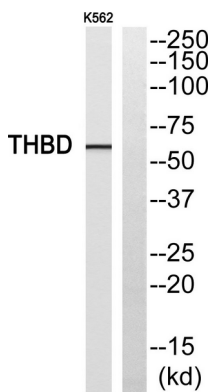
このイントロンのない遺伝子によってコードされるタンパク質は、トロンビンに結合する内皮特異的な I 型膜受容体です。この結合によりプロテイン C が活性化され、凝固因子 Va と VIIIa が分解され、生成されるトロンビンの量が減ります。この遺伝子の変異は、遺

伝性血栓形成傾向としても知られる血栓塞栓症の原因となります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],疾患: THBD の欠陥は、トロンボモジュリン欠陥 (THR-THBDD) による血栓形成傾向の原因です[MIM: 188040]。THR-THBDD は、血栓症傾向を特徴とする止血障害です。機能: トロンボモジュリンは、トロンピンと 1: 1 の化学量論的複合体を形成する特異的な内皮細胞受容体です。この複合体は、プロテイン C を活性化プロテイン C (プロテイン Ca) に変換する役割を担っています。タンパク質 Ca は進化すると、凝固機構の活性化補因子である第 Va 因子と第 VIIIa 因子を切断し、生成されるトロンピンの量を減らします。オンライン情報:トロンボモジュリン,オンライン情報:トロンボモジュリンの進入,PTM:N グリコシル化。PTM:鉄および 2-オキシグルタル酸依存性のアスパラギン酸およびアスパラギンの 3 位水酸化は、EGF ドメイン内で (R) 立体特異的です。類似性:1 つの C 型レクチンドメインを含みます。類似性:6 つの EGF 様ドメインを含みます。組織特異性:内皮細胞はトロンボモジュリンの合成において独特です。、

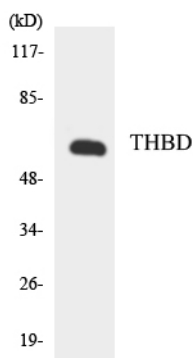
研究分野

補体と凝固カスケード;

画像データ



THBD 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは THBD ペプチドでブロッキングされている。



THBD 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。